



# 平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)



平成30年2月6日

上場会社名 ホクカンホールディングス株式会社  
 コード番号 5902 URL <http://www.hokkanholdings.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 工藤 常史  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 山崎 節昌  
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日  
 配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東 札  
 TEL 03-3213-5111

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	91,426	3.1	5,294	31.6	6,288	29.1	4,665	20.9
29年3月期第3四半期	94,341	2.5	7,737	79.3	8,874	68.5	5,896	87.9

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 5,789百万円 (18.6%) 29年3月期第3四半期 7,112百万円 (77.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	76.54	
29年3月期第3四半期	92.37	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	137,417	56,398	39.9
29年3月期	127,134	51,068	38.9

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 54,808百万円 29年3月期 49,434百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		3.75		3.75	7.50
30年3月期		3.75			
30年3月期(予想)				3.75	7.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	123,500	1.2	5,500	26.7	6,500	25.6	4,000	19.8	63.32

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	67,346,935 株	29年3月期	67,346,935 株
期末自己株式数	30年3月期3Q	6,398,025 株	29年3月期	6,393,424 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	60,952,294 株	29年3月期3Q	63,835,400 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっては、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9
(セグメント情報)	P. 9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や業況感が改善する中で設備投資が増加傾向にあり、また、個人消費も雇用・所得環境の改善を背景に、振れを伴いながらも、緩やかに増加しており、景気は緩やかな回復を続ける状況となりました。

当第3四半期連結累計期間における清涼飲料業界の状況につきましては、7月までは概ね全国的に好天に恵まれましたが、8月以降に東日本を中心に記録的な大雨が続いた影響により、清涼飲料業界全体では前年並みに推移する結果となりました。

カテゴリー別で見ますと、茶系飲料につきましては健康志向の高まりを背景に日本茶等の無糖茶系飲料が好調に推移し、また、炭酸飲料につきましても堅調に推移しましたものの、その他の清涼飲料（ミネラルウォーターやスポーツドリンク等）は前年を下回る結果となりました。

容器別にみますと、缶製品では、缶コーヒーにおける通常缶とリシール缶（ボトル缶）ともにペットボトルへのシフト等の影響を受けましたため、前年を下回る結果となりました。なお、ペットボトル製品につきましては前年を上回る結果となりました。

食品缶詰業界につきましては、農産缶詰は前年を若干上回る結果となりましたが、水産缶詰ではカニ・サンマ等を中心に不漁による原料不足のため大幅な減産となり、前年を下回る結果となりましたため、食品缶詰業界全体では、前年を下回る結果となりました。

#### [容器事業]

##### (メタル缶)

###### ①飲料缶・食品缶

飲料用スチール空缶につきましては、ホット用として販売を行っていたB T缶（固形物の出易いくびれ缶）がコールド商品に採用されるなど、好調に推移しましたものの、主力の缶コーヒーが、依然として減少傾向に歯止めがかからず、前年を下回る結果となりました。

食品缶詰用空缶につきましては、水産缶詰は原料不足の影響により、前年を下回る結果となり、また、農産缶詰につきましても前年を下回りましたため、食品缶詰用空缶全体においては、前年を下回る結果となりました。

###### ②その他

エアゾール用空缶につきましては、主力の殺虫剤が春先の天候不順の影響等により販売が減少しましたものの、燃料ボンベ缶の新規受注等の寄与により前年を上回る結果となりました。

また、美術缶につきましても、ギフト関連製品は前年割れとなりましたものの、スパイス缶の販売が好調に推移しましたため、前年を上回る結果となりました。

##### (プラスチック容器)

###### ①飲料用ペットボトル

飲料用ペットボトルにつきましては、お客様による内製化の影響により販売が減少しました。また、無菌充填用プリフォーム（ボトル成型前の中間製品）につきましても天候不順の影響を受け販売が減少しましたため、前年を下回る結果となりました。

###### ②食品用ペットボトル

食品用ペットボトルにつきましては、贈答用商品の販売が減少したこと等により、前年を下回る結果となりました。

###### ③その他

一般成形品につきましては、化粧品用および農薬・園芸品用の販売が好調に推移しました。また、バッグインボックスにつきましても前年を上回る販売となりましたため、一般成形品全体では前年を上回る結果となりました。

以上の結果、容器事業全体の売上高は30,733百万円（前年同期比5.3%減）となり、営業利益は1,062百万円（前年同期比62.9%減）となりました。

〔充填事業〕

〔缶製品〕

缶製品につきましては、リシール缶（ボトル缶）が新ラインの稼働により前年を上回る販売となりましたものの、通常缶の販売が落ち込みましたため缶製品全体では前年を下回る結果となりました。

〔ペットボトル製品〕

ペットボトル製品につきましては、アセプティック（無菌充填）を含む小型ペットボトル製品は、一部生産ラインのリニューアル工事の影響により、前年を下回る販売となりました。また、アセプティック（無菌充填）を含む大型ペットボトル製品につきましても、ミネラルウォーターの受注が減少したこと等により前年割れとなりましたため、ペットボトル製品全体では前年を下回る結果となりました。

以上の結果、乳製品受託製造販売を営むくじらい乳業株式会社を加えた充填事業全体の売上高は54,318百万円（前年同期比2.6%減）となり、営業利益は4,996百万円（前年同期比10.7%減）となりました。

〔機械製作事業〕

機械製作事業につきましては、自動車部品生産設備やリチウム電池製造設備の受注等が堅調であり、また、エンジニアリング部門におきましても前年を上回る結果となりましたため、機械製作事業全体の売上高は2,012百万円（前年同期比8.1%増）となり、営業利益は95百万円（前年同期比77.6%増）となりました。

〔その他〕

インドネシアにおいて、容器（ペットボトル）製造から内容物の充填までを一貫しておこなうPT. HOKKAN INDONESIA（ホッカ・インドネシア社）では、一部のお客様による内製化の影響等により、前年を下回る結果となりました。

また、ベトナムにおいて清涼飲料の受託充填事業を営んでおりますNIHON CANPACK (VIETNAM) CO., LTD.（日本キャンパック・ベトナム社）は、同国における天候不順の影響により、前年を下回る結果となりました。

なお、化粧品等製造販売を営む株式会社コスメサイエンスは、新製品受注や新規顧客の獲得等により、前年を上回る結果となりました。

以上の結果、工場内の運搬作業等を行っております株式会社ワーク・サービスを加えたその他全体の売上高は4,362百万円（前年同期比2.7%増）となり、営業損失は28百万円（前年同期は営業利益11百万円）となりました。

以上により、当第3四半期連結累計期間における売上高は91,426百万円（前年同期比3.1%減）、営業利益は5,294百万円（前年同期比31.6%減）、経常利益は6,288百万円（前年同期比29.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,665百万円（前年同期比20.9%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産の残高は137,417百万円(前連結会計年度末は127,134百万円)となり10,283百万円の増加となりました。これは現金及び預金が減少(2,325百万円から861百万円へ1,464百万円の減)したものの、受取手形及び売掛金の増加(23,634百万円から27,641百万円へ4,006百万円の増)、有形固定資産の増加(61,431百万円から65,371百万円へ3,940百万円の増)、電子記録債権の増加(2,838百万円から4,529百万円へ1,690百万円の増)、投資有価証券の増加(21,448百万円から22,763百万円へ1,315百万円の増)、並びに流動資産の「その他」に含まれております未収入金が増加(1,522百万円から2,339百万円へ816百万円の増)したことが主な要因であります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は81,018百万円(前連結会計年度末は76,065百万円)となり4,952百万円の増加となりました。これは未払法人税等が減少(1,990百万円から654百万円へ1,336百万円の減)したものの、リース債務の増加(1,665百万円から4,475百万円へ2,809百万円の増)、借入金の増加(41,337百万円から43,197百万円へ1,859百万円の増)、並びに支払手形及び買掛金が増加(17,766百万円から19,539百万円へ1,772百万円の増)したことが主な要因であります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は56,398百万円(前連結会計年度末は51,068百万円)となり5,330百万円の増加となりました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益4,665百万円を計上したことが主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績予想につきましては、平成29年5月11日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,325	861
受取手形及び売掛金	23,634	27,641
電子記録債権	2,838	4,529
商品及び製品	3,815	4,010
仕掛品	2,295	2,462
原材料及び貯蔵品	2,600	2,818
繰延税金資産	656	306
その他	2,643	2,958
貸倒引当金	△29	△27
流動資産合計	40,781	45,559
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	22,613	22,871
機械装置及び運搬具（純額）	18,924	19,018
土地	15,903	15,927
リース資産（純額）	2,855	5,329
建設仮勘定	584	1,557
その他（純額）	549	666
有形固定資産合計	61,431	65,371
無形固定資産	983	947
投資その他の資産		
投資有価証券	21,448	22,763
長期貸付金	183	655
繰延税金資産	9	43
退職給付に係る資産	436	437
その他	2,043	1,818
貸倒引当金	△183	△180
投資その他の資産合計	23,937	25,538
固定資産合計	86,352	91,857
資産合計	127,134	137,417

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,766	19,539
短期借入金	14,568	24,489
リース債務	444	738
未払法人税等	1,990	654
賞与引当金	898	386
その他	7,193	7,221
流動負債合計	42,861	53,029
固定負債		
長期借入金	26,768	18,708
リース債務	1,221	3,737
繰延税金負債	1,233	1,641
退職給付に係る負債	3,067	3,031
その他	913	870
固定負債合計	33,204	27,989
負債合計	76,065	81,018
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,086	11,086
資本剰余金	11,070	11,070
利益剰余金	24,352	28,561
自己株式	△1,954	△1,956
株主資本合計	44,555	48,761
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,679	6,709
繰延ヘッジ損益	11	18
為替換算調整勘定	67	27
退職給付に係る調整累計額	△878	△708
その他の包括利益累計額合計	4,879	6,046
非支配株主持分	1,633	1,590
純資産合計	51,068	56,398
負債純資産合計	127,134	137,417

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	94,341	91,426
売上原価	76,386	75,925
売上総利益	17,955	15,501
販売費及び一般管理費	10,217	10,206
営業利益	7,737	5,294
営業外収益		
受取利息	17	20
受取配当金	212	201
持分法による投資利益	883	374
受取賃貸料	88	84
受取保険金	111	380
その他	209	294
営業外収益合計	1,523	1,355
営業外費用		
支払利息	259	202
弔慰金	40	60
その他	87	99
営業外費用合計	386	361
経常利益	8,874	6,288
特別利益		
固定資産売却益	7	8
投資有価証券売却益	465	285
関係会社株式売却益	357	-
資産除去債務戻入益	-	121
その他	32	2
特別利益合計	863	418
特別損失		
固定資産売却損	38	-
固定資産除却損	177	244
投資有価証券評価損	-	43
経営統合関連費用	227	5
その他	0	6
特別損失合計	443	299
税金等調整前四半期純利益	9,293	6,407
法人税、住民税及び事業税	2,666	1,504
法人税等調整額	452	265
法人税等合計	3,119	1,769
四半期純利益	6,174	4,637
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	277	△27
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,896	4,665

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	6,174	4,637
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	485	869
繰延ヘッジ損益	4	6
為替換算調整勘定	156	△56
退職給付に係る調整額	168	166
持分法適用会社に対する持分相当額	122	165
その他の包括利益合計	938	1,152
四半期包括利益	7,112	5,789
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,816	5,832
非支配株主に係る四半期包括利益	296	△42

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	容器 事業	充填 事業	機械製作 事業	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	32,456	55,774	1,860	90,092	4,249	94,341	—	94,341
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,065	—	1,057	5,123	1,152	6,275	△6,275	—
計	36,522	55,774	2,918	95,215	5,401	100,617	△6,275	94,341
セグメント利益	2,868	5,596	53	8,517	11	8,529	△792	7,737

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外事業、工場内運搬作業等の請負事業及び化粧品等製造販売事業であります。

2 セグメント利益の調整額△792百万円には、セグメント間取引消去173百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△965百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社の一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	容器 事業	充填 事業	機械製作 事業	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	30,733	54,318	2,012	87,064	4,362	91,426	—	91,426
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	4,188	—	1,794	5,982	1,182	7,165	△7,165	—
計	34,921	54,318	3,806	93,047	5,545	98,592	△7,165	91,426
セグメント利益又は損失(△)	1,062	4,996	95	6,154	△28	6,126	△831	5,294

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外事業、工場内運搬作業等の請負事業及び化粧品等製造販売事業であります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△831百万円には、セグメント間取引消去157百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△988百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない持株会社の一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。